

上田市文化財調査報告書第63集

古 城 遺 跡

上田市立第一中学校建設に係る
古城遺跡発掘調査報告書

1997. 3

上 田 市
上 田 市 教 育 委 員 会

上田市文化財調査報告書第63集

古 城 遺 跡

上田市立第一中学校建設に係る
古城遺跡発掘調査報告書

1997. 3

上 田 市
上 田 市 教 育 委 員 会

序

長野冬季オリンピックまで1年と迫り、オリンピックムードが次第に高まってきております。これに伴い、上信越自動車道建設工事をはじめとして大小様々な規模の開発事業が実施されております。

今回、上田市立第一中学校の建設に先立ち、「古城遺跡」の発掘調査を行いました。この調査の成果については、本文中で詳述しますが、平安時代に関する遺構・遺物が出土しました。特に、九葉单弁蓮花文軒丸瓦の破片が出土したことは、信濃国分寺跡との関連を考えるうえで注目されます。

発掘調査地は、南方に信濃国分寺跡を見下ろす台地上に位置しています。当時、国分寺は第一級の学問施設ですが、この陰には、国分寺造営にかかわった多くの一般庶民の存在がありました。この時代の庶民の歴史の解明は、文献資料の存在が希薄なため、大部分を発掘調査の成果の蓄積に委ねています。今回の調査成果は、庶民の歴史を解明するうえで意義深いものになると思います。このため、発掘調査の充実を図り、その成果の活用を積極的に行っていくことを考えています。

本報告書が刊行されるまで長期にわたって作業に従事された皆様方に衷心より感謝を申し上げて、序といたします。

平成9年3月

上田市教育委員会教育長

内藤 尚

例　　言

- 1 本書は、長野県上田市大字国分字上沖における、上田市立第一中学校建設に伴う古城遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、上田市の単独事業として実施し、上田市教育委員会事務局社会教育課が担当した。
- 3 現地調査は、1996年4月3日から同年5月31日まで実施し、引き続き1997年3月25日まで整理・報告書作成作業を行った。
- 4 遺構の実測は、西沢和浩・清水彰・池田市郎が行った。全体空中写真測量・図化は、㈱こうそくに委託して実施した。
- 5 遺物の洗浄・注記・接合・実測・トレース・版組は、西沢・清水の指示により豊場奈那江・石合好江・齊藤かな枝・田村まり子・大井敬子・井沢光子・丸田由紀子・山本万里が行った。
- 6 遺構・遺物写真の撮影は、西沢・清水が行った。
- 7 現地調査の基準点測量とメッシュ杭打を上田測量設計㈱（現あさま測量設計㈱）に委託して実施した。
- 8 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 9 本書の編集・刊行は、社会教育課が行った。
- 10 本調査の体制は次のとおりである。

教　育　長　内藤　尚

教　育　次　長　荒井　鉄雄

社会教育課長　松沢征太郎

文化係　長　岡田　洋一

主　　査　中沢　徳士・尾見　智志

主　　任　塙崎　幸夫・久保田　敦子

技　術　員　久保田　浩

主　　事　西沢　和浩（担当者）・清水　彰（担当者）・小笠原　正

11 調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

（現地調査） 竹内和好・磯部応二・竹内勇・井部定雄・小柳治雄・林正治・池田市郎
・池内宣裕

（整理作業） 豊場奈那江・石合好江・齊藤かな枝・田村まり子・大井敬子・井沢光子
・丸田由紀子・山本万里・市村みづ子

凡　　例

遺構

- 1 遺構は、()内に示す略号で表し、続く番号は任意である。
竪穴住居址 (SB-)・溝址 (SD-)・土壙 (SK-)・ピット (P-)・竪穴住居址のピット (P)
- 2 遺構の図版は、原則として国家座標による真北を頁の上としたが、紙面の都合により例外もある。その際には、その方位を示した。
- 3 遺構実測図は原図 1:20・縮小 1:3、竪は原図 1:10・縮小 1:3とした。
- 4 土層断面の観察は、主体となる土を『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局財団法人日本色彩研究所色票 1988及び1990)を用いて判別した。
- 5 竪穴住居址の主軸方位は、国家座標の真北と住居址の中軸線とのなす角度で示した。
- 6 SK-・P-・P の規模は、(長軸×短軸×検出面からの深さ)で示した。
- 7 標高の単位は、全て「m」である。
- 8 遺構図中の [] は焼土を示し、[] は炭化物を示す。
- 9 遺構写真の縮小は任意である。
- 10 遺構図中の番号は、遺物図中の番号と一致する。

遺物

- 1 遺物実測図は、原図 1:1・縮小 1:3とした。
- 2 土器の実測方法は、右 1/2 に断面・内面、左 1/2 に外面を記録する 4 分割法を原則とし、必要に応じてその率を変えた。
- 3 遺物実測図中の [] は黒色処理を示し、[] は施釉を示す。
- 4 出土遺物一覧表中の法量は、上から口径・残高・底径あるいは裾径を示す。同表中の器質は、胎土を「胎」、焼成を「焼」、色調を「色」とした。なお、色調は、遺物の内面及び外面の基本的な色調を『新版標準土色帖』(前出)を用いて判別した。
- 5 遺物写真の縮小は任意である。

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

第一章 序 説	1
第1節 調査の経過	1
第2節 調査の方法	1
第3節 調査日誌	2
第4節 報告書抄録	2
第二章 環 境	3
第1節 自然的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 遺跡の基本層序	6
第三章 調査の結果	10
第1節 概要	10
第2節 遺構実測図	11
遺構観察表	24
第3節 遺物実測図	26
遺物観察表	31
写真図版	35

第一章 序 説

第1節 調査の経過

平成6年夏、上田市教育委員会事務局学校教育課（以下、「学校教育課」という。）から、同事務局社会教育課（以下、「社会教育課」という。）に、上田市大字国分地区に上田市立第一中学校を移転・建設する計画があるため、埋蔵文化財の有無について照会があった。

社会教育課では、遺跡分布図・埋蔵文化財分布調査報告書を確認すると、当該地は「染屋台条里水田跡遺跡」の範囲内に該当していた。そのため、学校教育課・社会教育課で遺跡の保護について協議を実施し、遺跡の範囲確認のための試掘調査を実施し、その結果により保護措置を検討することになった。

これにより、平成6年11月7～9日にかけて試掘調査を実施した。この際、本事業地は未買収であったため、試掘調査の承諾を学校教育課に得てもらった。その結果、平安時代の遺構・遺物が出土し遺跡の存在が判明したが、承諾が得られない場所があったため、遺跡の範囲を確定することはできなかった。その後、買収完了に伴い、さらに詳細な試掘調査を平成8年2月15・16日に実施した結果、事業地内約3,500m²に遺跡が広がっていることが確認された。

このため、学校教育課と社会教育課で再協議を行い、この遺跡を工事着手前に発掘調査を実施し、記録保存を図ることが決定した。これにより、社会教育課では、平成8年4月3日から5月31日にかけて現地調査を実施した。その後、整理作業を行い、平成9年3月25日までに本報告書を刊行し、すべての調査を終了した。

第2節 調査の方法

本遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「染屋台条里水田跡遺跡」の範囲内に存在するが、この包蔵地は、範囲が広いため場所の特定が難しい。そのため、本遺跡の所在地の旧字名を用い「古城遺跡」とした。これに伴い、Fu-Ru-Jo-Uの「FJ」を本遺跡の略記号として用いた。

調査区域の設定は、事業地内の試掘調査によって判明した遺跡の範囲とした。調査にあたっては、バックホーにより表土を除去し、その後遺構検出・掘上作業を人力により行った。また、3m×3mのメッシュを設定し、遺構の測量・遺物の取り上げ等に利用した。メッシュの設定方法は、基準点0を設定し、そこから国家座標にのるように設定した。その際、東西南北にそれぞれ記号（EWSN）をあたえ、基準点からの距離を組み合わせて使用した。ここで使用した基準点0の座標値は、X=+42,480,000, Y=-20,145,000（第Ⅶ量系）である。

遺構測量は、このメッシュを利用した簡易遺り方法で行ったほか、全体遺構写真撮影及び図化を専門家に委託して実施した。

第3節 調査日誌（抄）

平成8年

- 4月3日 (月) バックホーによる表土剥作業開始
- 4月8日 (月) 遺構検出作業開始
- 4月19日 (金) 遺構掘上げ作業開始
- 4月30日 (火) バックホーによる表土剥作業終了
- 5月20日 (月) 遺構測量作業開始
- 5月30日 (木) 航空写真撮影
- 5月31日 (金) 機材搬出 現地調査終了

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成9年3月25日までに調査報告書の刊行を行い、すべての調査事業を終了した。

第4節 報告書抄録

ふりがな	ふるじょういせき						
書名	古城遺跡						
副書名	上田市立第一中学校建設に係る古城遺跡発掘調査報告書						
シリーズ名	上田市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第63集						
編著者名	西沢 和浩・清水 彰						
編集機関	上田市教育委員会						
所在地	〒386 長野県上田市天神二丁目4番74号 TEL0268-23-5102						
発行年月日	1997年3月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	調査コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふるじょういせき 古城遺跡	うえだしおねあざこくぶ 上田市大字国分 あざくわくぶ 字上沖	20203	36° 22'57"	138° 16'34"	19960403 19960531	3,500m ²	中学校建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
古城遺跡	集落	平安時代	竪穴住居址 溝塀 土壤	7 1 7	土師器・須恵器・ 古瓦		

第二章 環 境

第1節 自然的環境

染屋台条里水田跡遺跡は、千曲川の第一段丘面にあたる染屋台地に所在する。染屋台地は、上田市域の東方部で、北に虚空蔵山と横山丘陵があり、その麓で東西の長さ約3.5km、東は、神川に望む段丘崖が東北方からやや西南方向に約3.8km、西は染屋段丘崖が西方から東南方向に約3kmの三側線に囲まれた三角形状の地域であり、面積は約5.76km²である。東辺は神川河床から25~30m、西辺は上田市街面から15~20mの高さを持っている台地である。土質は下部が段丘礫層、上部は2~3mのローム層で第四紀洪積世に形成されたものであり、地質学的には染屋層と呼ばれている。

染屋台地は北辺部が標高580m、南端部は標高500m、標高差80mをはかる。これは模式的な隆起扇状地と呼ばれている。この扇状地は、神川本流或いは支流の浸食を受けていない。その反面、自然流の乏水地域である。また、この台地は地下水位が低く井戸水をえられにくく、田用水は飲料水に適していないといわれている。土質は有効磷酸、マンガンに乏しく酸性の強い強粘土地帯である。

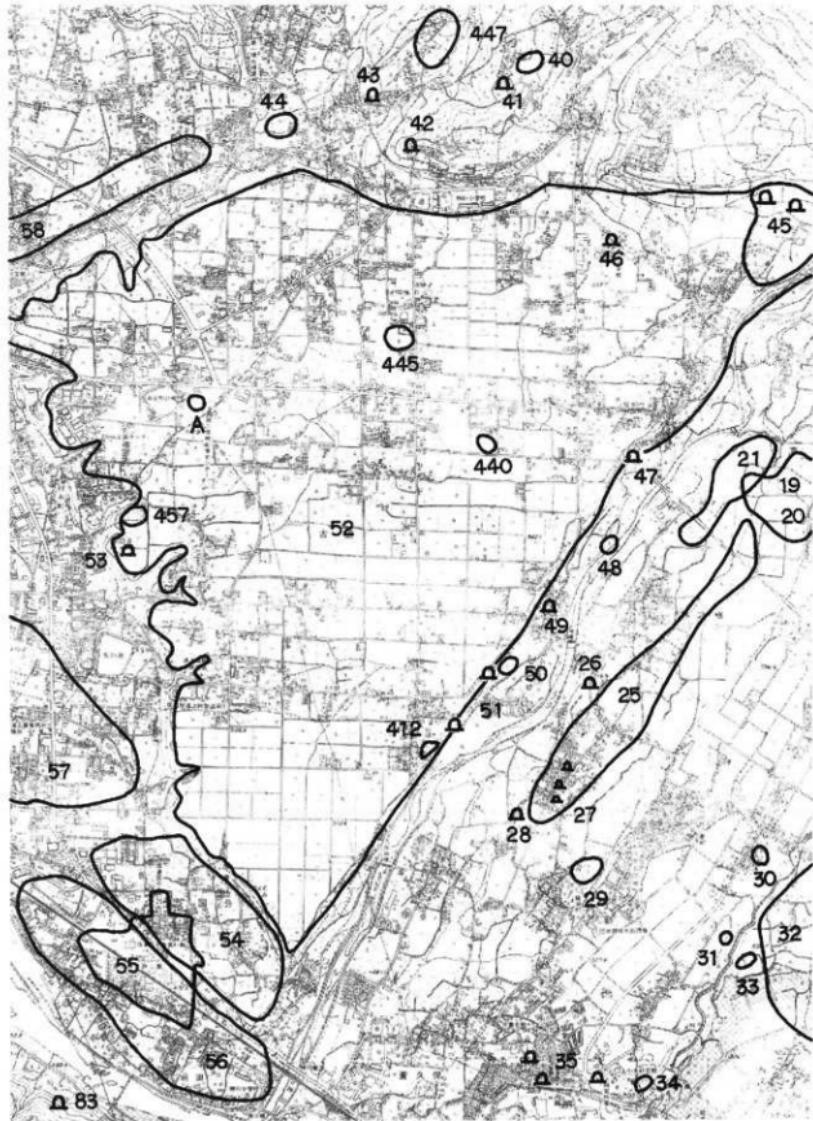
扇状地の微地形的考察では、同心円状に等高線があり、そこに凹凸のあることがわかる。その大半は平行であり、東西方向の流路となっている地点が凹地となっている。そのうち、もっとも大規模なものが新屋堰であり、扇状地上の最高地を貫き大幹線となっている。また染屋堰・岩門堰も等高線を切っている。その他にも小さな凹地がいくつもあり、それらが扇状地面上に変化を与えている。しかし、染屋台のこのような変化は人工による堰の開設後、その浸食によって生じたものと考えられている。

今回、発掘調査を実施した古城遺跡は、染屋台の北西隅に存在する。千曲川方向に目を向けると、第2・3・4段丘面がよく見渡せる。さらに、千曲川の左岸には小牧山塊が広がる。

第2節 歴史的環境

染屋台地は、自然流がなかったことからその開発が比較的遅く、当地域からは縄文・弥生時代の遺跡および遺物の知見は比較的少なく、主として弥生時代以降のものが、台地周縁部に知られている。弥生期については発掘調査がされたことがなく表面探査調査によっている。西方の第2段丘面には信州大学織維学部を中心とする常入遺跡群(57)が存在し、平成8年の調査により弥生時代の集落が確認されている。

古墳時代には、北縁の虚空蔵山麓に新屋古墳群(45)がある。当初は、大字上野字鴻呂館及び矢花地籍にかけて20数基あったと伝えられている。現在は鴻呂館地籍に3基残り、矢花地籍には「矢花の七つ塚」と呼ばれているもののうち3基が残存している。塚田地籍の上田市立第五中学校の敷地内にある塚田塚古墳(46)は小規模ながら横穴式石室を残して



第1図 周辺遺跡図

番号	遺跡名	時代	備考	番号	遺跡名	時代	備考
19	八千原遺跡	繩弥平	'89調査	46	塚田塚古墳	古	
20	堂下遺跡	繩～平		47	野竹塚古墳	古	
21	太田・法楽寺遺跡	古～平	'95よひ	48	篠井久保遺跡	弥～平	
25	林之郷遺跡	繩～平	'88, '89よひ	49	笛井塚古墳	古	
26	日ノ井古墳	古		50	掛の宮遺跡	繩～古	
27	高寺古墳群	古		51	掛の宮塚古墳	古	
28	生地場古墳	古		52	染屋台条里水田跡遺跡	弥～平	
29	中村Ⅱ遺跡	繩		53	向田古墳	古	
30	荒神田遺跡	平		54	国分遺跡群	弥～平	
31	訛口上遺跡	平		55	信濃国分寺跡	奈	同説よひ
32	中吉田遺跡	繩弥平		56	国分寺周辺遺跡群	繩～平	
33	今井遺跡	平		57	常入遺跡群	繩～平	
34	いなご坂遺跡	繩		58	金井裏遺跡	繩～平	
35	吉田原古墳群	古		83	坂下古墳	古	
40	上野東遺跡	繩		412	岩門城跡	近	
41	陣馬塚古墳	古		440	東之手・西之手遺跡	古～平	
42	玄蕃塚古墳	古		445	柳町遺跡	古	
43	熱秦寺古墳	古		447	宮平遺跡	古～平	
44	熱秦寺遺跡	繩		457	染屋城跡	近	
45	七ツ塚古墳	古	同説よひ	△	大畑遺跡	中	'95よひ

第1表 周辺遺跡名表

いる。また、岩門地籍の社宮寺古墳(51)、向田地籍の向田古墳(53)が存在するが、墳丘のあることのほか、詳しいことはわかっていない。発掘調査例としては、昭和58年から5次にわたって行われた「創置の信濃国府跡推定地確認調査」・平成3年の柳町遺跡(445)が挙げられるが、いずれも遺跡の密度は薄い。

奈良・平安時代になると、土師器・須恵器等の遺物が各所で表面採集されているが、発掘調査例がないため、遺跡の範囲などは明確ではない。また、この台上に信濃国府がおかれたとの説があるが、これを裏付ける調査事例はない。北方の第3段丘面には、信濃国分寺跡(55)がある。昭和37~46年にかけての発掘調査により、僧寺と尼寺が並置して確認された。現在、史跡公園として整備され、市民の憩いの場となっている。

中世以降、当地域は主として水田地帯として発展していった。平成7年に調査された大畠遺跡(A)では、青磁蓮弁文碗の破片と宋銭が出土している。

近年では、上信越自動車道と北陸新幹線の工事とともに、周辺地域の開発が進み、住宅地城としても活用されつつある。

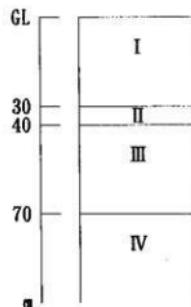
なお、染屋台全域にわたって「条里遺構」が展開しているが、この形成年代等については明確にされていない。

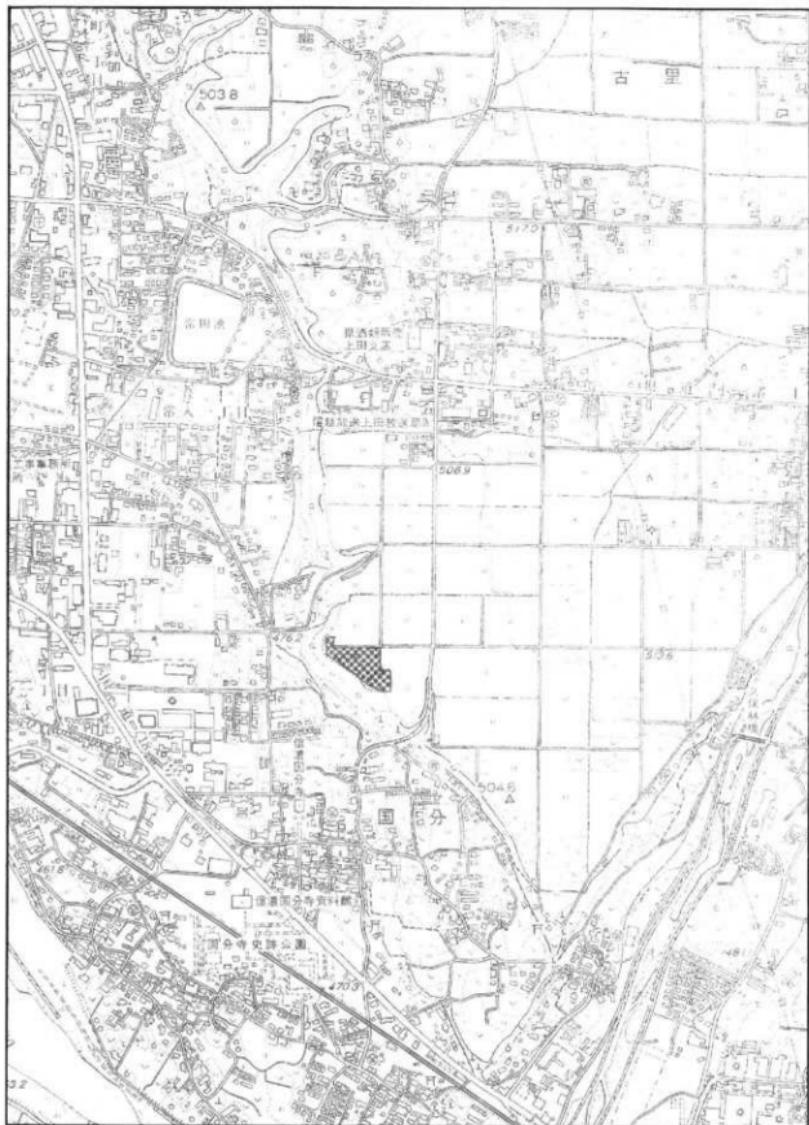
第3節 遺跡の基本層序

古城遺跡の基本層序は、右に示すとおりである。強粘土地帯であるため、水捌けが非常に悪い。遺構検出面は、GL-90cm前後である。これは、ほ場整備により盛り土された影響と思われる。

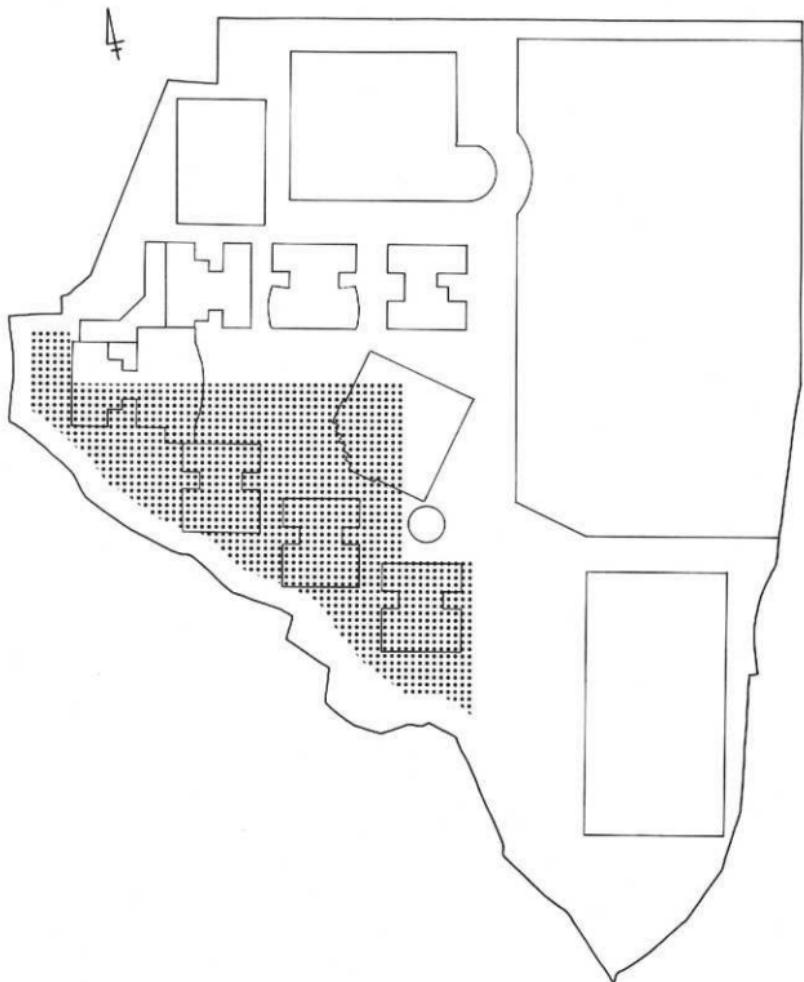
土層凡例

- I 耕作土
- II 10YR6/3にぶい黄橙色粘土
- III 10YR3/1黒褐色粘質土
- IV 10YR6/6明黄褐色粘土

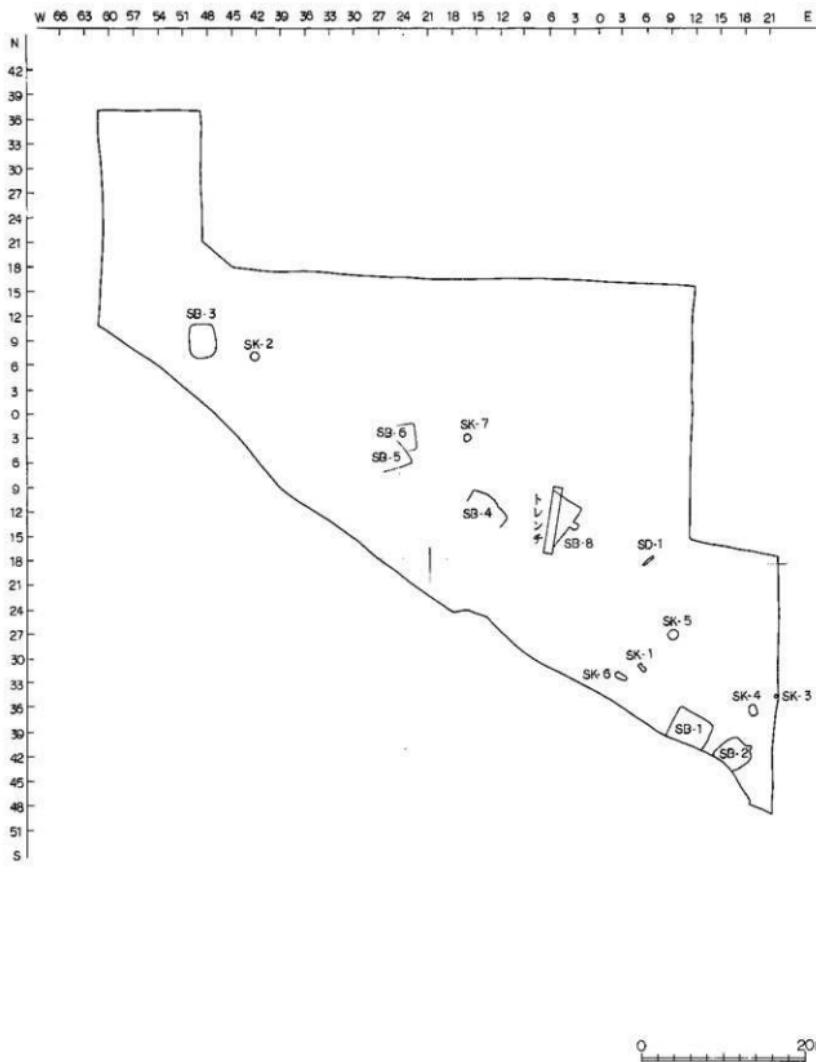




第2図 古城遺跡位置図



第3図 第一中学校施工範囲図



第4図 遺構配置図

第三章 調査の結果

第1節 概要

今回検出された遺構は、竪穴住居址7件・溝址1件・土壙17件・ピット108件である。

(1) 竪穴住居址

竪穴住居址7件は全て平安時代のものと思われる。第1～3号の平面形態はいずれも隅丸（長）方形である。第1～3号以外はいずれも削平が激しく、平面形態もはっきりしない。

竈が残るものは、1・2・4号である。そのうち1号は非常に残存が悪い。2号は、造り出しの石組み竈であり、周辺に貯蔵穴と思われるピットをともなう。4号は、2カ所に竈を持つ。削平により竈の中心部のみしか確認できなかった。そのため新旧関係もはっきりしない。

主な遺物としては、2号から内面を黒色処理した坏・貯蔵用の甕（第20図）が出土している。

4号からは、坏・羽釜等（第21図）が出土している。

(2) その他の遺構

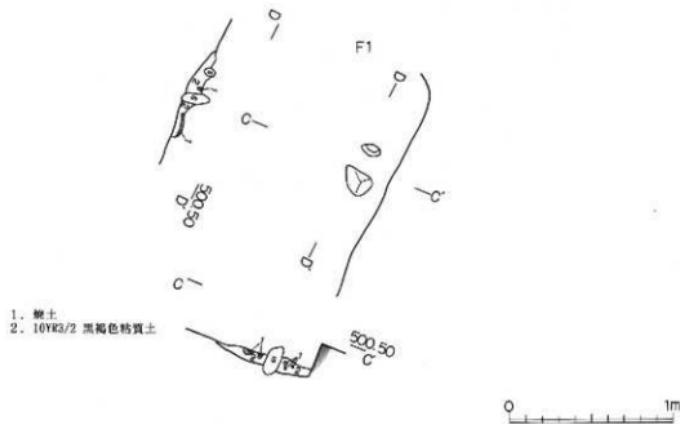
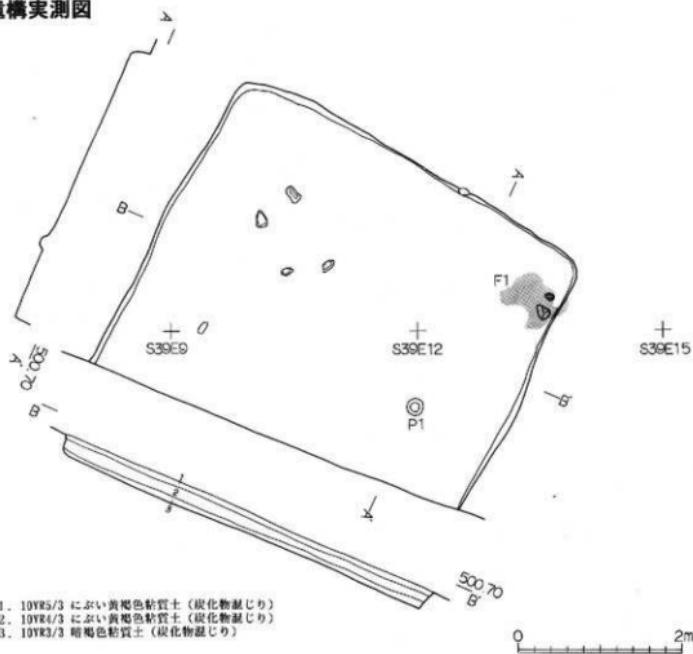
1号土壙の平面形態は長楕円形である。内面を黒色処理した坏（第23図）の出土状況から土壙墓の可能性がある。

1号ピットからは、灰釉陶器の底部（第25図）が出土している。この底面には墨書きと思われるものがあるが判然としない。

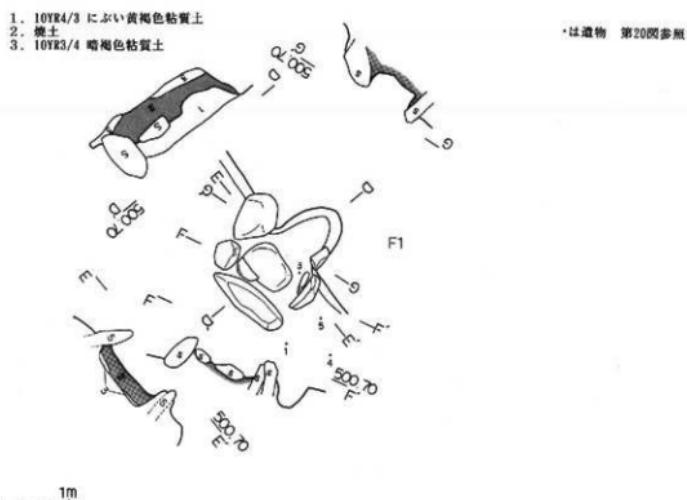
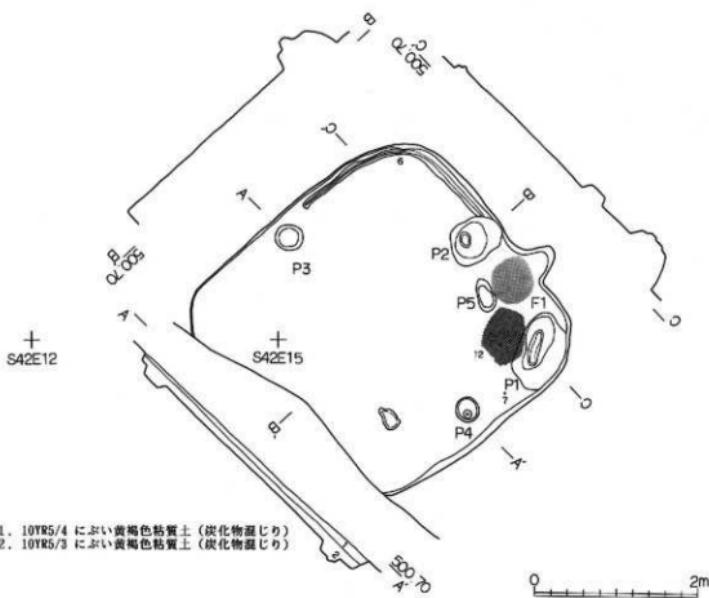
また、S18W21（グリッド名）から九葉單弁蓮花文軒丸瓦の一部（第26図）が出土している。これは、「信濃国分寺一本編一」（1974 上田市教育委員会）に所収されている現信濃国分寺本堂東南隅から出土した軒丸瓦（第28図）と同範と考えられ、注目される。

以上、今回の調査により確認できた主な点を列記した。

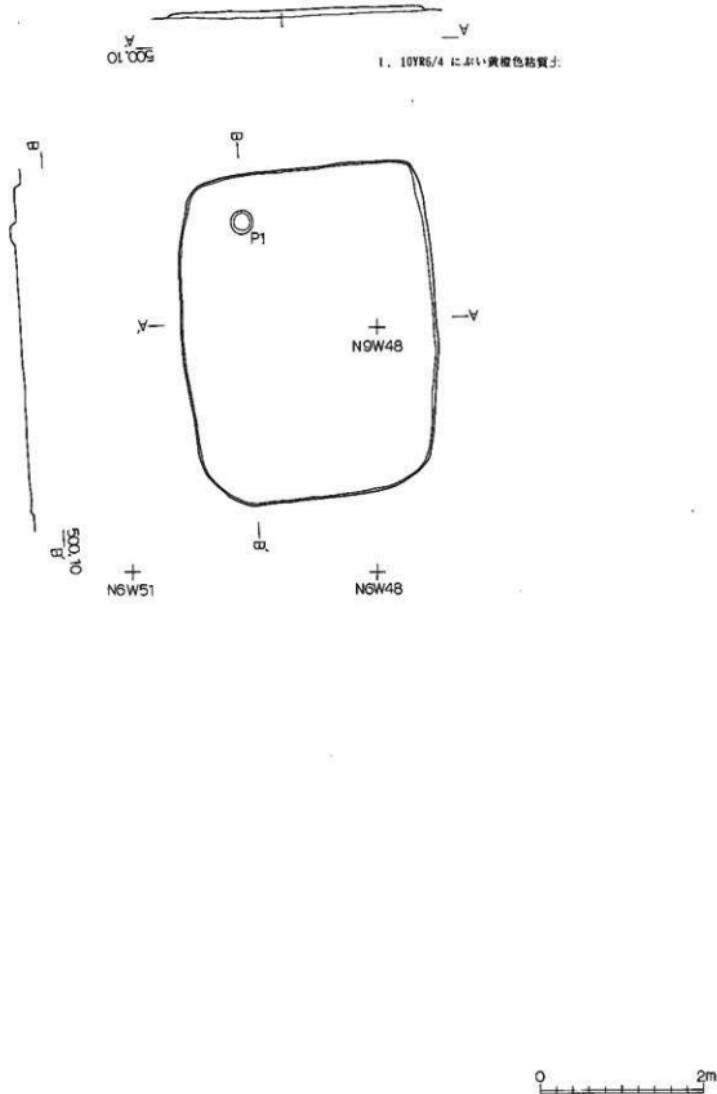
第2節 遺構実測図



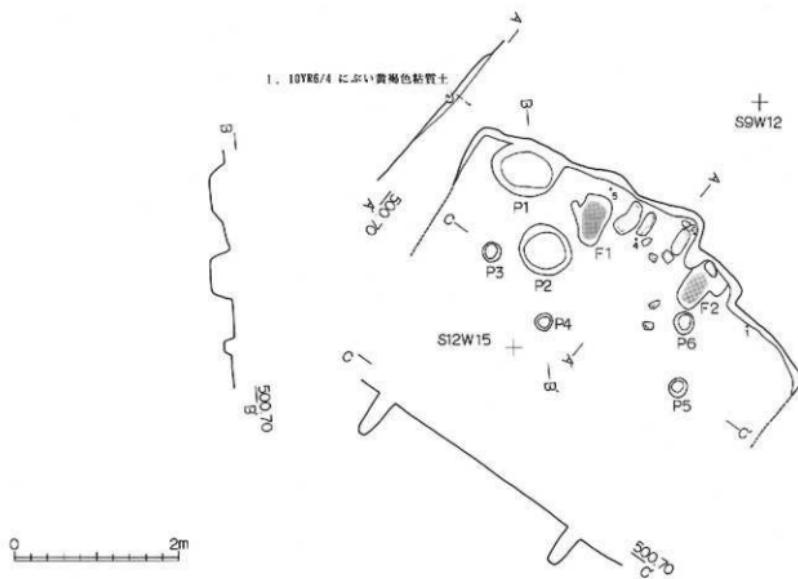
第5図 第1号住居址実測図



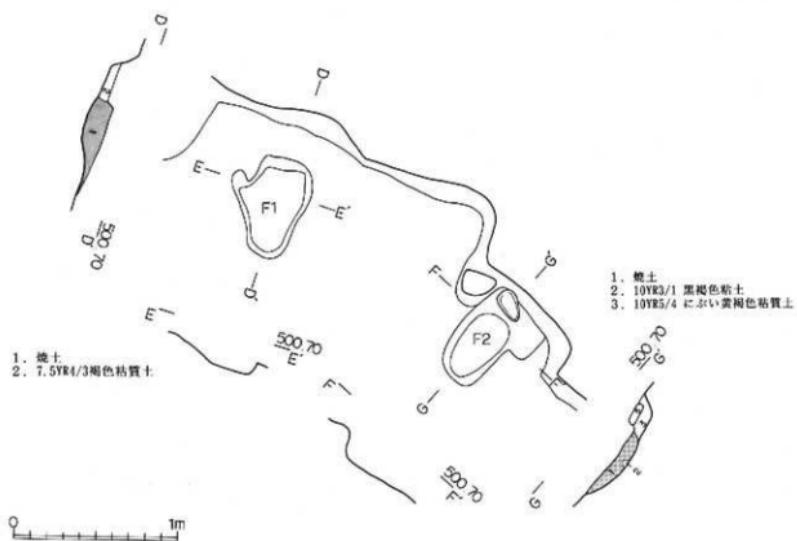
第6図 第2号住居址実測図



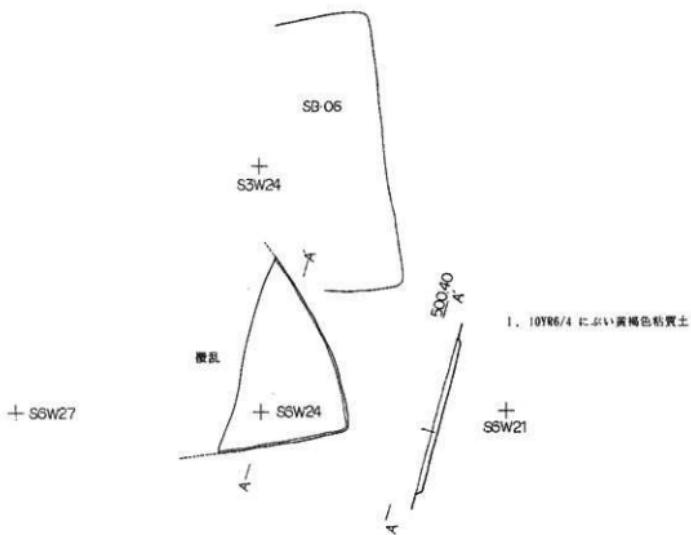
第7図 第3号住居址実測図



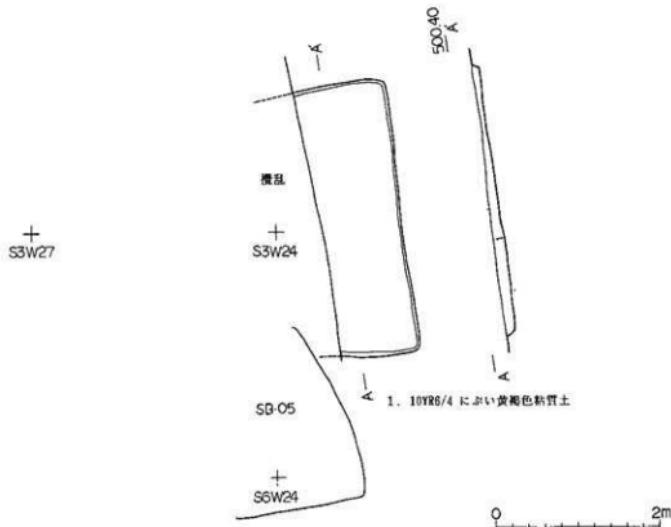
・は遺物 第21回参照



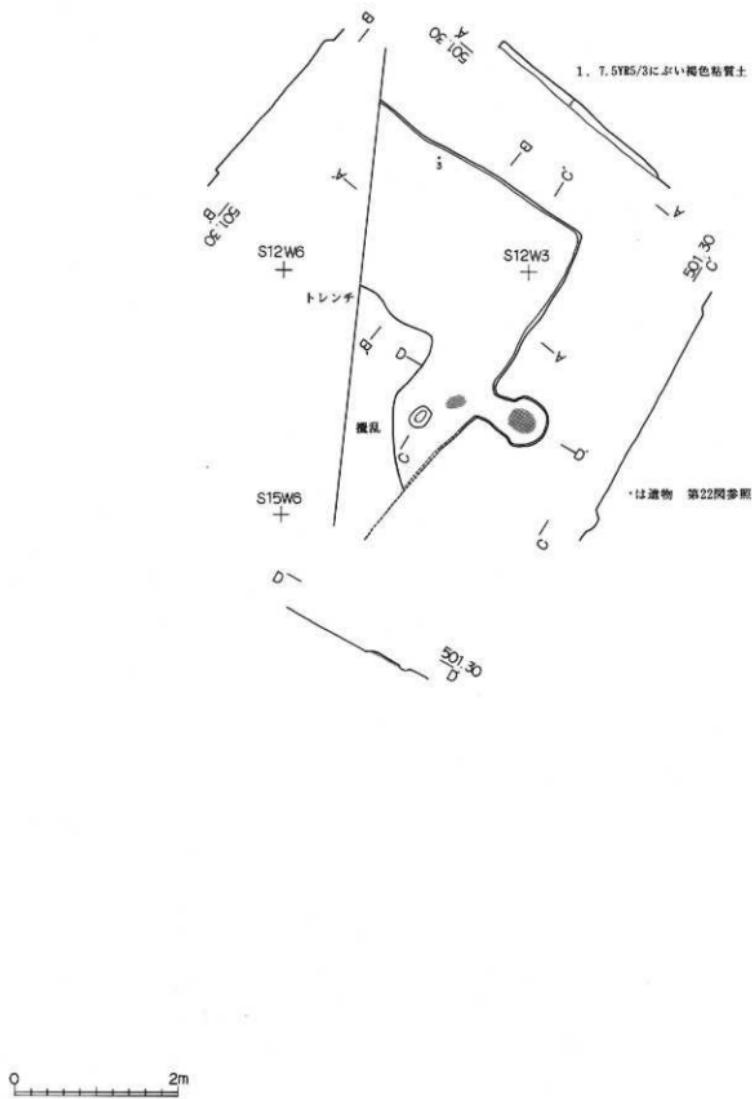
第8図 第4号住居址実測図



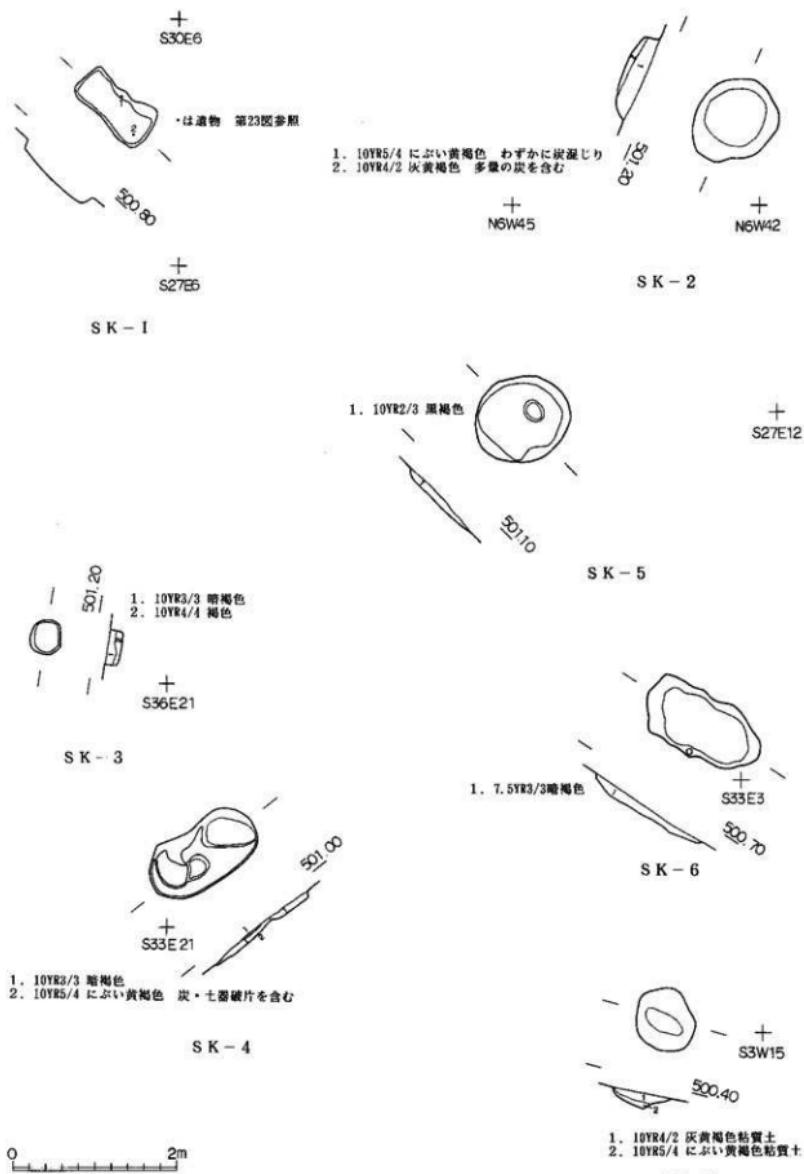
第9図 第5号住居址実測図



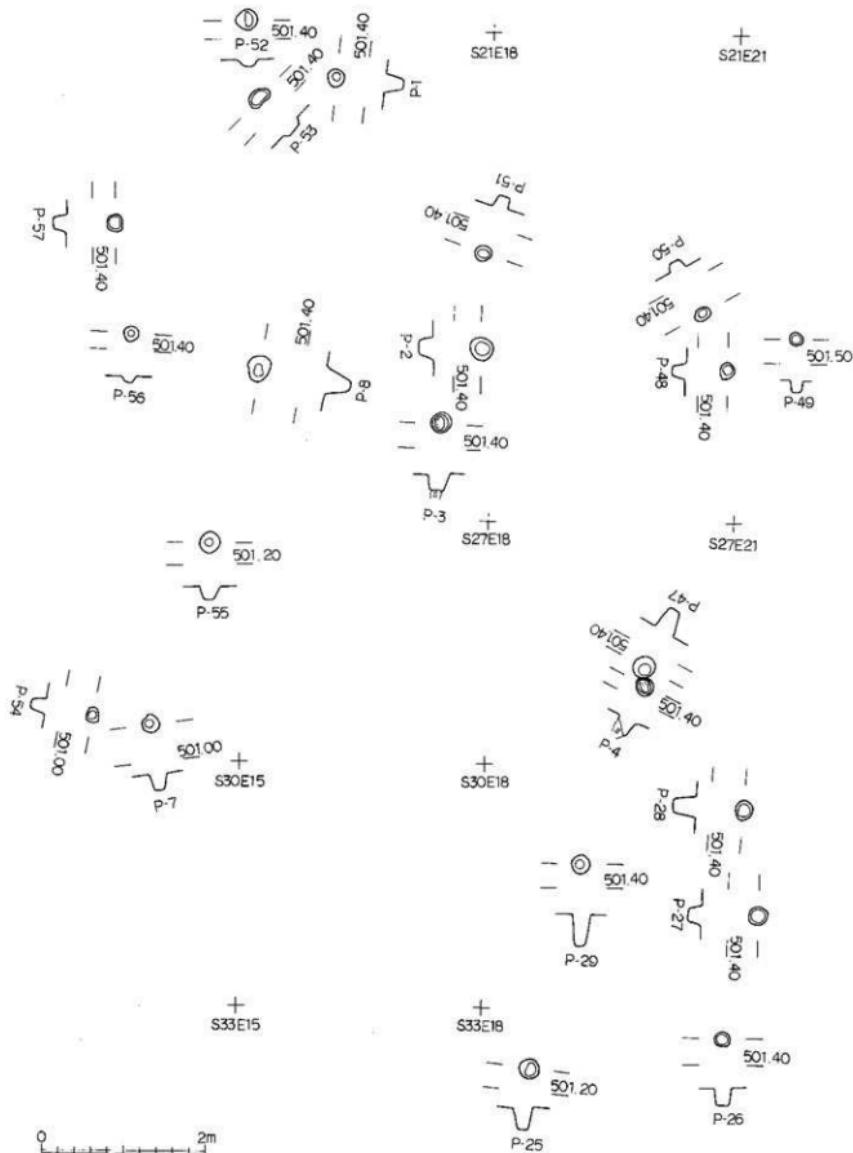
第10図 第6号住居址実測図



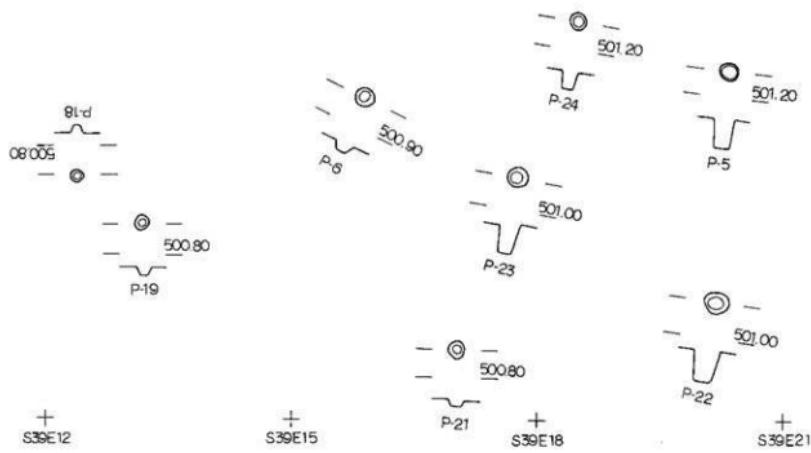
第11図 第8号住居址実測図



第12図 土壌実測図

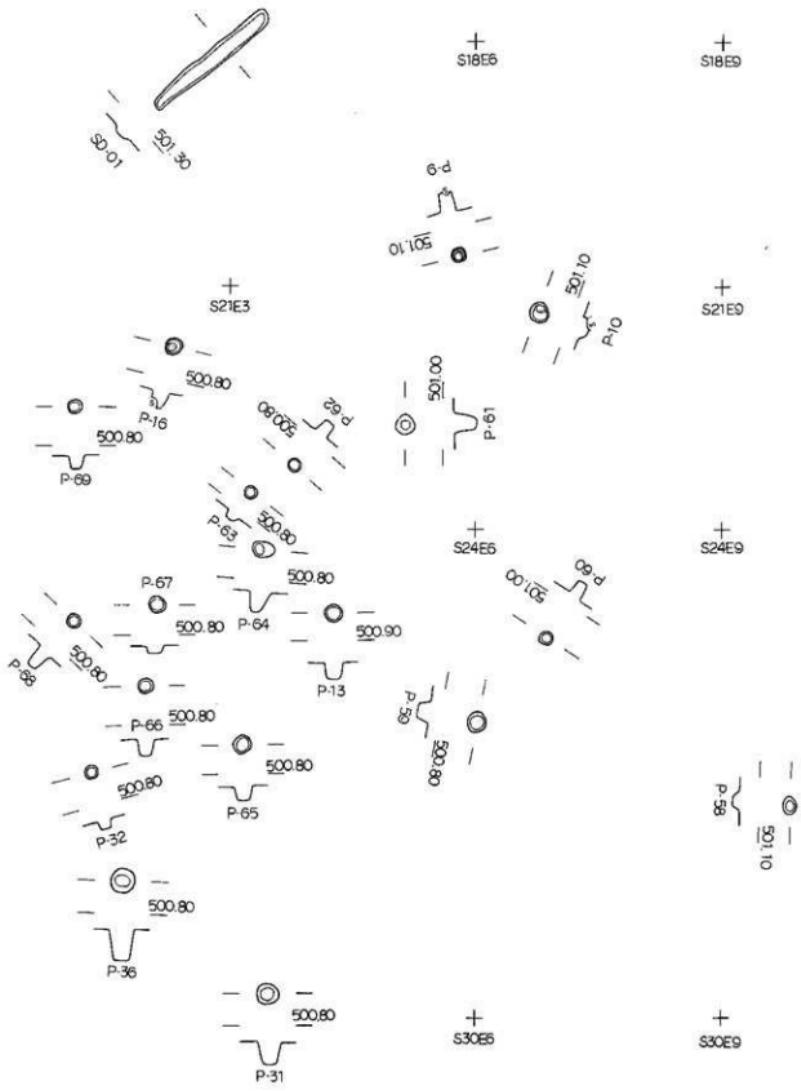


第13図 ピット実測図

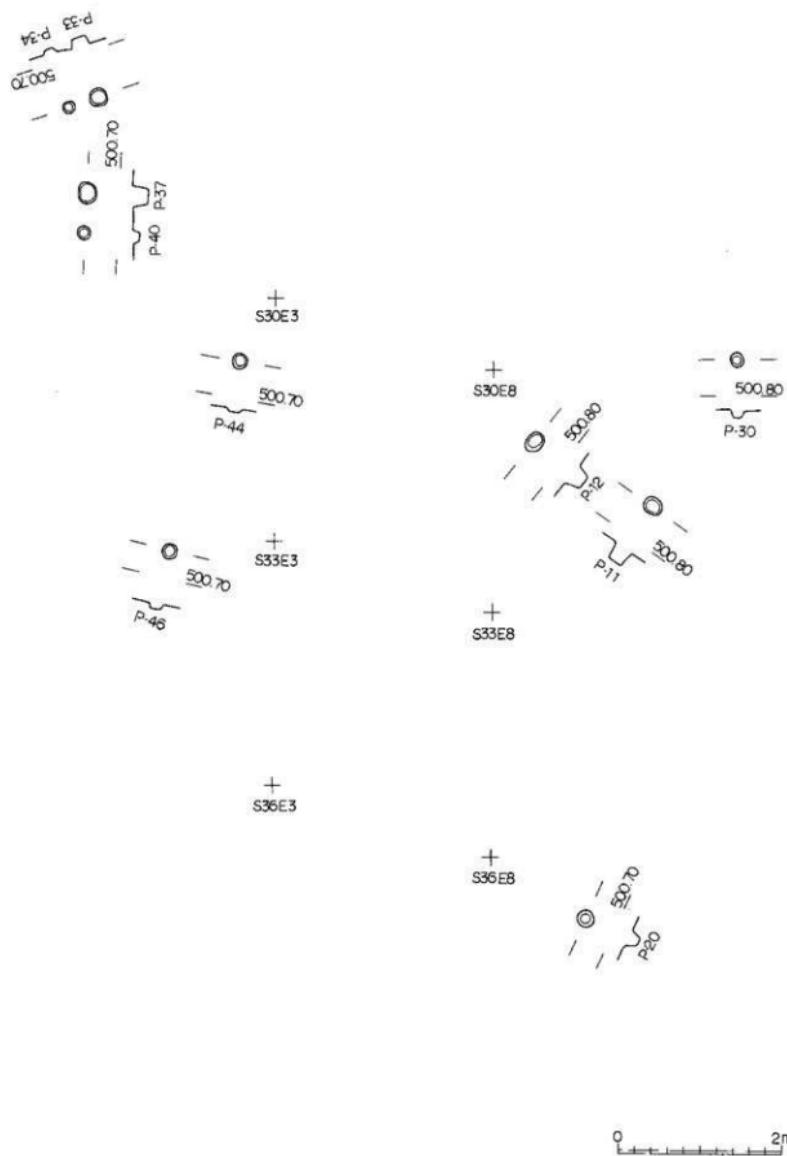


0 2m

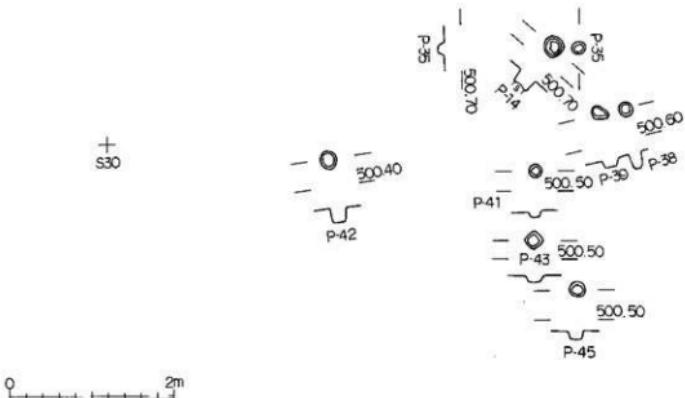
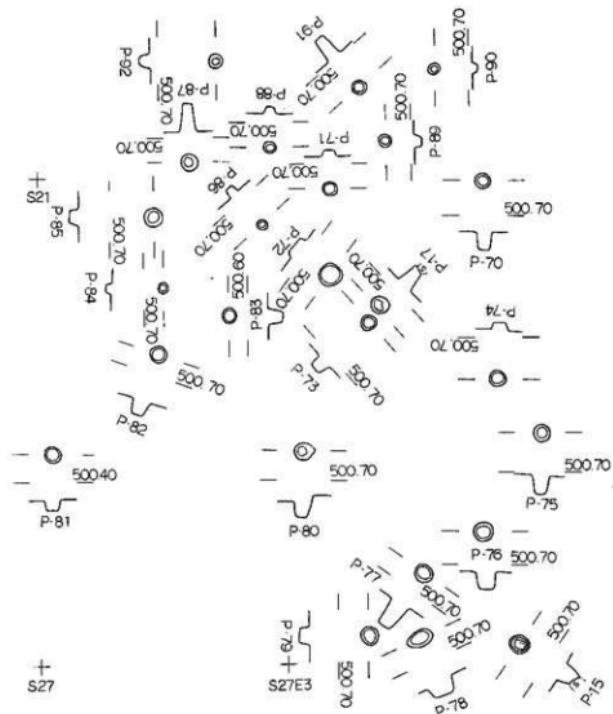
第14図 ピット実測図



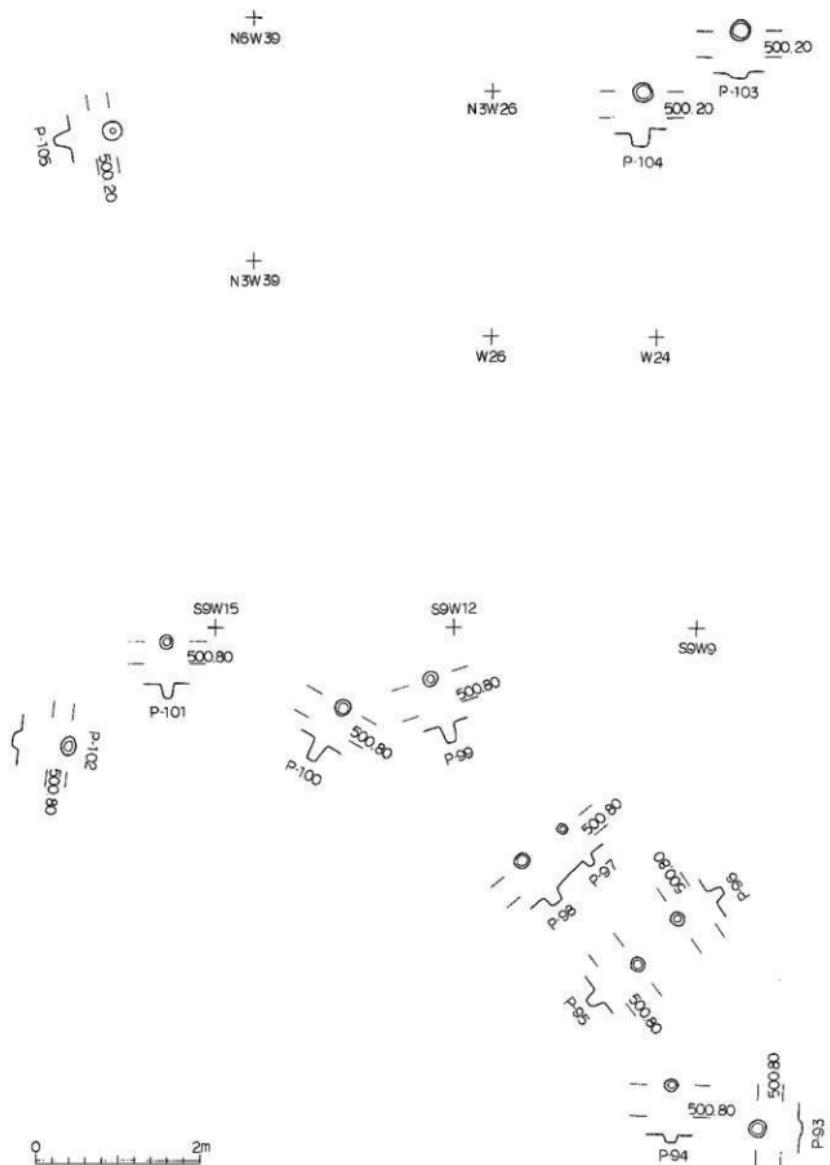
第15図 溝址・ピット実測図



第16図 ピット実測図



第17図 ピット実測図



第18図 ピット実測図

遺構番号	1号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	隅丸方形 N-30°-E 4.62×	壁 高 床 高 床面積	0.26(NE)~0.11(NW) 500.37~500.29 不明
遺物図版	第19図				
柱 穴	(長径×短径×深さ) P1 (0.11×0.10×0.07)				
窓	位 置 主軸方位 規 模 (最大長×最大幅) 北東隅 N-122°-E 0.77×0.59				
備 考	住居址南側は調査区域外である。床面は締まり、凹凸は少ない。床着の土器は検出されなかった。				

遺構番号	2号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	隅丸方形 N-55°-E 3.70×	壁 高 床 高 床面積	0.23(SE)~0.06(NW) 500.36~500.33 不明
遺物図版	第20図				
柱 穴	(幅×幅×高) P1 (0.48×0.28×0.26) P2 (0.33×0.23×0.26) P3 (0.17×0.16×0.08) P4 (0.15×0.14×0.10) P5 (0.21×0.10×0.09)				
窓	位 置 主軸方位 規 模 (最大長×最大幅) 北東壁中央東寄り N-52°-E 0.88×0.66				
備 考	住居址南側は調査区域外である。床面は締まり、凹凸は少ない。西壁北側と北壁に周溝が巡る。P1・2は貯蔵穴と思われる。				

遺構番号	3号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	隅丸長方形 N-4°-E 4.03×3.13	壁 高 床 高 床面積	0.06(N)~0.02(S) 499.79~499.73 11.30m ²
遺物図版	—				
柱 穴	(幅×幅×高) P1 (0.29×0.27×0.07)				
備 考	床面は締まり、凹凸は少ない。				

第2表 遺構観察表(1)

遺構番号	4号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	不明 N-39°-E 5. 02×	壁 高 床 高 床面積	0. 15 (N) ~0. 05 (NE) 500. 44~500. 53 不明
遺物図版	第21図				
柱	(縫×縫×縫)	P1 (0. 80×0. 59×0. 12) P3 (0. 25×0. 23×0. 54) P5 (0. 24×0. 20×0. 48)	P2 (0. 64×0. 58×0. 26) P4 (0. 22×0. 20×0. 38) P6 (0. 29×0. 24×0. 10)		
穴					
1号竈	位 置 主軸方位 規模 (最大長×最大幅)	北東壁中央西寄り N-11°-E 0. 82×0. 51	備 考	袖の痕跡が竈西側にわずかに残存する。	
2号竈	位 置 主軸方位 規模 (最大長×最大幅)	北東壁中央東寄り N-43°-E 0. 64×0. 57	備 考	燃焼室のみ確認する。	
備 考	住居址南側が削平され、北側の残存状況も非常に悪い。P1・2は貯蔵穴と思われる。				

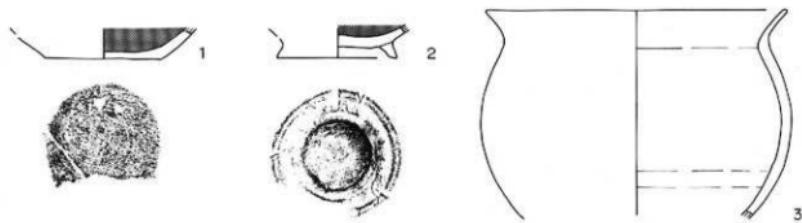
遺構番号	5号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	不明 不明 不明	壁 高 床 高 床面積	0. 12 (E) ~ 500. 09~ 不明
遺物図版	—				
備 考	住居址の大部分が攪乱を受けている。				

遺構番号	6号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	不明 N-7°-W 3. 25×	壁 高 床 高 床面積	0. 10 (E) ~0. 09 (S) 500. 09~500. 07 不明
遺物図版	—				
備 考	住居址西側が攪乱を受けている。				

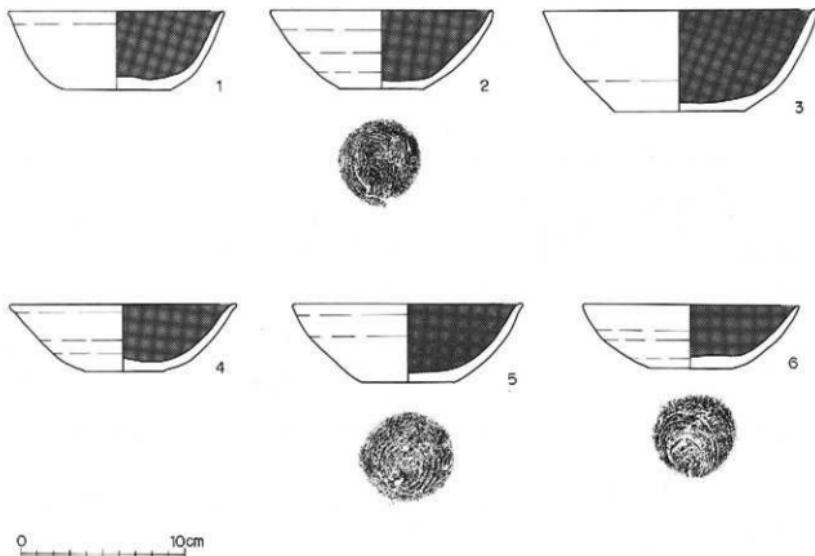
遺構番号	8号住居址	平面形態 主軸方位 規 模	不明 N-31°-E 不明	壁 高 床 高 床面積	0. 05 (NE) ~0. 03 (SE) 500. 99~501. 01 不明
遺物図版	第22図				
柱	(縫×縫×縫)	P1 (0. 29×0. 22×0. 08)			
穴					
備 考	住居址西側は削平されている。床面は綺まり、凹凸は少ない。				

第2表 遺構観察表 (2)

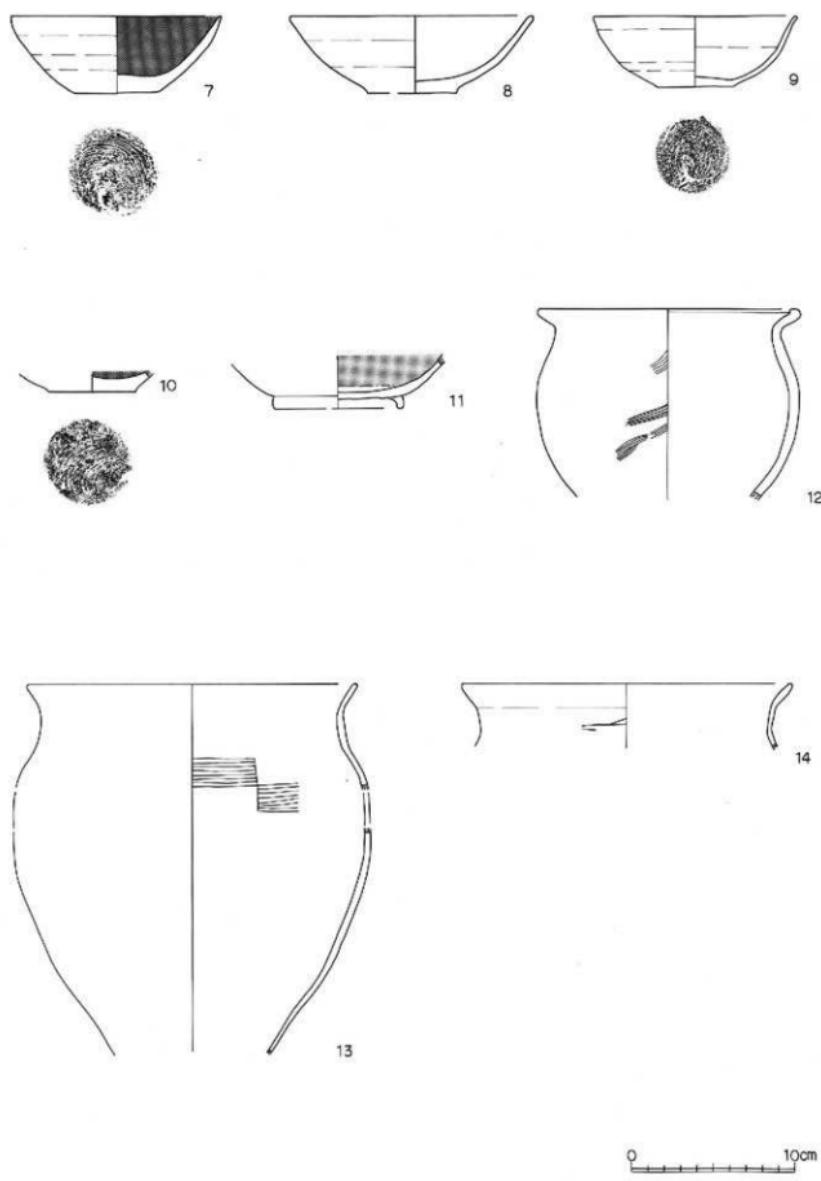
第3節 遺物実測図



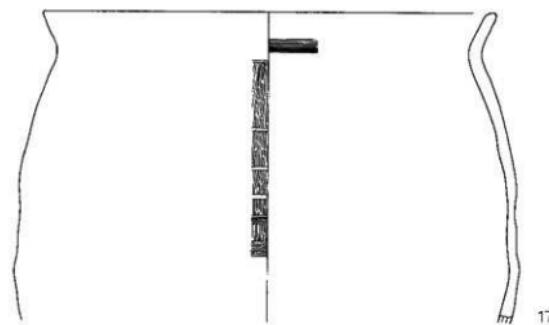
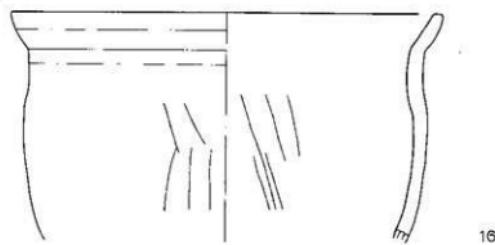
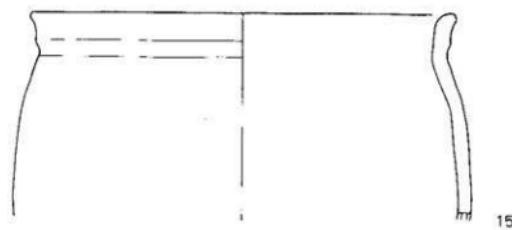
第19図 第1号住居址出土遺物実測図



第20図 第2号住居址出土遺物実測図（1）

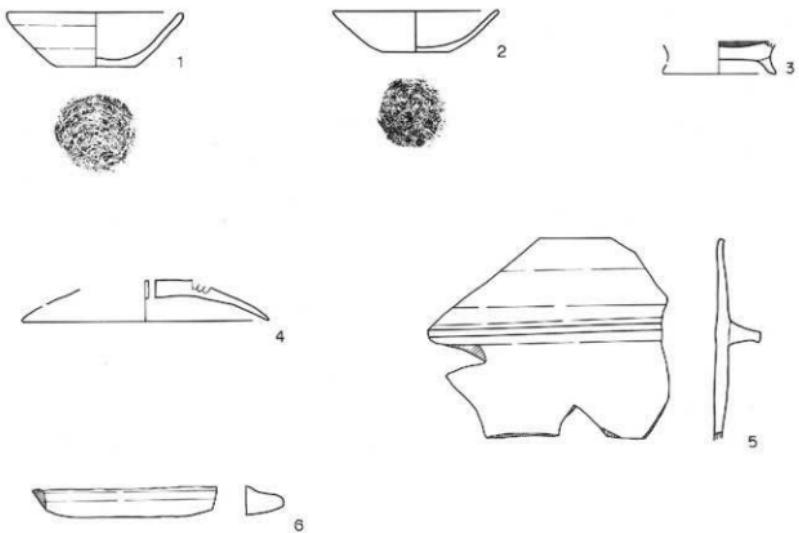


第20図 第2号住居址出土遺物実測図(2)

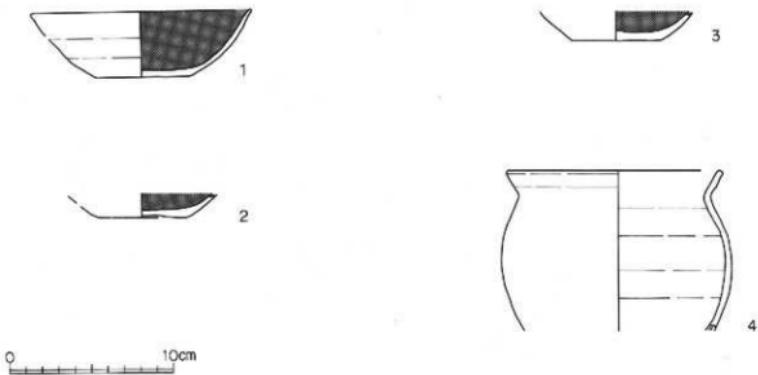


0 10cm

第20図 第2号住居址出土遺物実測図（3）



第21図 第4号住居址出土遺物実測図



第22図 第8号住居址出土遺物実測図



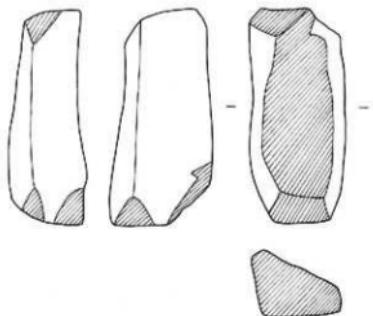
第23図 第1号土壤出土遺物実測図



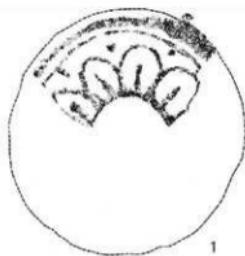
第24図 第1号溝址出土遺物実測図



第25図 第1号ピット出土遺物実測図

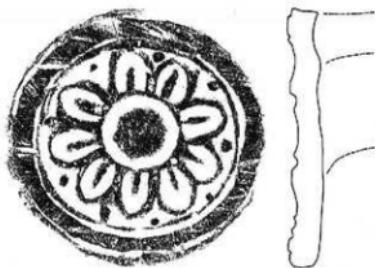


第26図 第13号ピット出土遺物実測図



第27図 グリット出土遺物実測図

0 10cm



第28図 現信濃国分寺本堂東南隅出土遺物実測図

遺構名 図版No	器種 種類	法 量	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
1号 住居址 図19H-1	壺 土師 底盤のみ	- 2.0 7.0	胎: 硬・石英・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR7/4にぶい橙 (B) 黒	平底より外傾して立ち上る	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
1号 住居址 図19H-2	壺 土師 底部のみ	- 1.8 7.4	胎: 硬・鈍・鈍・體鉗 焼: 良好 色: (A) 7.5YR8/6浅黄橙 (B) 黒	付高台	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
1号 住居址 図19H-3	甕 土師 口縁-脚-身	18.4 12.7 -	胎: 硬・石英・雲母含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/6橙 (B) 7.5YR7/4にぶい橙	口縁部「く」状に外反する	(A) 軸轆による撫で (B) 軸轆による撫で
2号 住居址 図20H-1	壺 土師 完存	13.0 4.8 5.6	胎: 硬・石英・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10YR7/3にぶい黄橙 (B) 黒	平底より内窓して立ち上り、口唇部で僅かに外反する	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-2	壺 土師 脚2/3剥離	13.5 4.8 5.0	胎: 硬・雲母・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR8/3浅黄橙 (B) 黒	平底より内窓気味に立ち上がり聞く	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-3	壺 土師 脚2/3剥離	16.3 6.2 8.0	胎: 硬・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR5/4橙 (B) 黒	平底より内窓気味に立ち上がり聞く	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-4	壺 土師 ほぼ完存	13.5 4.1 4.8	胎: 硬・雲母・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR8/3浅黄橙 (B) 黒	平底より外傾して立ち上り、口縁部で僅かに外反する	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-5	壺 土師 ほぼ完存	13.8 4.8 5.5	胎: 硬・雲母・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR7/3にぶい橙 (B) 黒	平底より外傾して立ち上り、口縁部で僅かに外反する	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-6	壺 土師 ほぼ完存	12.0 3.9 5.0	胎: 硬・雲母・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR8/2灰白 (B) 黒	平底より外傾して立ち上り聞く	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-7	壺 土師 完存	12.8 4.7 5.2	胎: 硬・鈍・鈍・體鉗 焼: 良好 色: (A) 7.5YR8/3浅黄橙 (B) 黒	平底より内窓気味に立ち上がり聞く	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-8	壺 土師 2/5	14.2 4.7 5.2	胎: 硬・鈍・鈍・體鉗 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/4にぶい橙 (B) 7.5YR5/1褐灰	平底より外傾して立ち上り、口唇部で僅かに外反する	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 軸轆による撫で
2号 住居址 図20H-9	壺 土師 ほぼ完存	12.3 4.3 4.6	胎: 石英・雲母含む 焼: 良好 色: (A) 10R4/8赤 (B) 2.5YR6/8M-5YR3/1褐褐	平底より外傾して立ち上り、口唇部で僅かに外反する	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 軸轆による撫で
2号 住居址 図20H-10	壺 土師 底部のみ	- 1.4 5.2	胎: 硬・鈍・鈍・體鉗 焼: 良好 色: (A) 10YR6/3にぶい黄橙 (B) 黒	平底	(A) 軸轆による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
2号 住居址 図20H-11	甕 灰釉 壺器	- 2.8 7.8 底部1/2	胎: 石英含む 焼: 良好 色: (A) 10Y7/1灰白 (B) 10Y7/1灰白	付高台	(A) 軸轆による撫で (B) 軸轆による撫で 内面施塗
2号 住居址 図20H-12	甕 土師 口縁-脚-身	15.8 11.7 -	胎: 硬・雲母・粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5Y8/3淡黄 (B) 2.5Y8/2灰白	丸みを帯びた胴部から「く」状に外反する口縁部に至る。口唇部巻き込む	(A) 口縁部撫で 脊部刷毛調整 (B) 口縁部撫で 脊部刷毛調整

第3表 遺物観察表(1)

遺物名 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態・文様ほか	整形ほか
2号 住居址 ■ 20H-13	甕 土師	20.0 22.7 — 口縁1/2	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR7/3にぶい橙 (B) 7.5YR7/6橙	倒卵形の胸部より、口 縁部は「コ」状に緩く 折れる	(A) 口縁部横位の撫で 胸部削り (B) 口縁部横位の撫で 胸部削毛調整
2号 住居址 ■ 20H-14	甕 土師	20.0 4.0 — 口縁1/4	胎:雲母・粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR5/4にぶい褐 (B) 7.5YR6/6橙	口縁部外反する	(A) 撫で (B) 撫で
2号 住居址 ■ 20H-15	甕 土師	25.6 12.6 — 口縁1/4	胎:石英・粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR6/8橙 (B) 7.5YR7/6橙	口縁部外反する	(A) 口縁部撫で 胸部削 り (B) 撫で
2号 住居址 ■ 20H-16	甕 土師	26.4 14.0 — 口縁2/5	胎:雲母・粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR7/6橙 (B) 7.5YR5/4にぶい褐	口縁部外反する	(A) 口縁部撫で 胸部削 り (B) 口縁部撫で 胸部削 り
2号 住居址 ■ 20H-17	甕 土師	27.4 19.0 — 口縁1/5	胎:雲母・粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 5YR6/3にぶい橙 (B) 5YR5/2灰褐	口縁部「く」状に外反 する	(A) 縦位の刷毛調葉後輪 盤による撫で (B) 轮盤による撫で
4号 住居址 ■ 21H-1	杯 土師	10.6 3.3 4.8 完存	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR8/3浅黄 (B) 7.5YR8/4浅黄	平底より外傾して立ち 上がり開く	(A) 轮盤による撫で 底部回転糸切り (B) 轮盤による撫で
4号 住居址 ■ 21H-2	杯 土師	10.0 2.5 4.0 ほぼ完存	胎:雲母・石英含む 燒:良好 色:(A) 2.5YR8/4淡黄 (B) 10YR8/1灰白	平底より内寄気味に立 ち上がり開く	(A) 轮盤による撫で 底部回転糸切り (B) 黒色処理
4号 住居址 ■ 21H-3	桶 土師	— 2.0 7.4 底部破損	胎:雲母・石英含む 燒:良好 色:(A) 5YR7/6橙 (B) 黒	平底より外傾して立ち 上がり、口縁部で傾か に外反する	(A) 轮盤による撫で 底部回転糸切り (B) 黑色処理
4号 住居址 ■ 21H-4	蓋 土師	— 2.5 15.0 2/5	胎:雲母・石英・粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR7/8黄橙 (B) 5YR6/8橙	中心に1孔を有する	(A) 轮盤による撫で (B) 轮盤による撫で
4号 住居址 ■ 21H-5	瓶 土師	— 12.3 — 口~肩部	胎:雲母・石英含む 燒:良好 色:(A) 5YR6/8橙 (B) 7.5YR4/3褐	鉢部を付ける	(A) 轮盤による撫で (B) 轮盤による撫で
4号 住居址 ■ 21H-6	羽釜 土師	— 1.7 — 鉢部一部	胎:雲母・石英含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR3/3暗褐 (B)	鉢部を付ける	(A) 撫で (B)
8号 住居址 ■ 22H-1	杯 土師	13.4 4.0 5.6 1/3	胎:石英含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR6/6橙 (B) 黒	平底より内寄気味に立 ち上がり、口縁部で傾 かに外反する	(A) 轮盤による撫で 底部回転糸切り (B) 黑色処理
8号 住居址 ■ 22H-2	杯 土師	— 1.5 5.5 底部のみ	胎:雲母・石英・粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 5YR4/1褐灰 (B) 黒	平底	(A) 轮盤による撫で 底部回転糸切り (B) 黑色処理
8号 住居址 ■ 22H-3	杯 土師	— 1.8 5.2 底部のみ	胎:雲母・石英含む 燒:良好 色:(A) 7.5YR7/6橙 (B) 黒	平底	(A) 轮盤による撫で 底部回転糸切り (B) 黑色処理
8号 住居址 ■ 22H-4	甕 土師	12.4 9.8 — 口~肩部	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 2.5YR7/8橙 (B) 7.5YR8/2灰白	丸みを帯びた胸部から 「く」状に外反する口 縁部に至る	(A) 轮盤による撫で (B) 轮盤による撫で

第3表 遺物観察表(2)

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器 質	成形・形態・文様ほか	整 形 ほ か
1号土壤 ■ 23M-1	壺 土師	14.0 4.2 5.6 D=42/3底	胎：礫・石英・粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5YR8/4淡橙 (B) 黒	平底より内寄り味に立ち上がり、口唇部で僅かに外反する	(A) 軸輪による撻で底部回転糸切り (B) 黒色処理
1号土壤 ■ 23M-2	壺 土師	13.6 4.0 5.8 完存	胎：粗・礫・鈣・鉄 焼：良好 色：(A) 7.5YR7/2明褐灰 (B) 黒	平底より内寄り味に立ち上がり、口唇部で僅かに外反する	(A) 軸輪による撻で底部回転糸切り (B) 黒色処理
1号溝址 ■ 24M-1	盤 土師	3.0 8.4 底部のみ	胎：粗・礫・鈣・鉄 焼：良好 色：(A) 7.5YR8/6浅黄橙 (B) 7.5YR8/6浅黄橙	付高台	(A) 軸輪による撻で (B) 軸輪による撻で
1号 ピット 灰塚 陶器	壺	— 2.7 8.4 底部のみ	胎：礫・粗砂粒含む 焼：良好 色：(A) 5GY6/1赤-灰 (B) 5 GY6/1赤-灰-10Y6/2赤-灰	付高台	(A) 軸輪による撻で底面墨書き? (B) 軸輪による撻で内面施釉

遺構番号	図版番号	器種	石 材	長さ a	幅 a	厚さ a	重量 g	備 考
13号ピット	第26図-1	砥 石	ヒン岩	13.6	4.9	4.3	480	4面に使用痕

第3表 遺物観察表 (3)

上田市文化財調査報告書第63集

古 城 遺 跡

古城遺跡発掘調査報告書

発 行 平成9年3月25日

上 田 市

上田市教育委員会

印 刷 田口印刷株式会社

写 真 図 版



調査地区（上空から）



調査地区遠景（北東から）



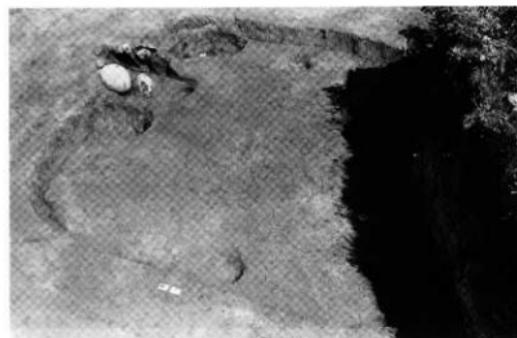
調査地区遠景（西から）



1号住居址（西から）



1号住居竈（西から）



2号住居址（西から）



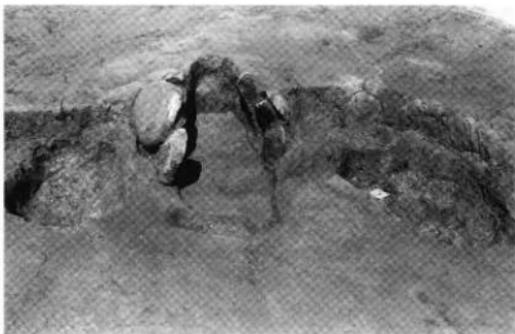
2号住居址竈遺物出土状況（南から）



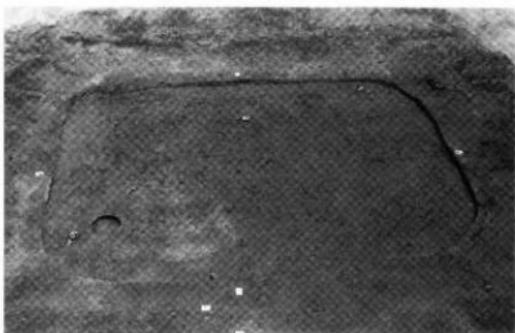
2号住居址竈（南から）



2号住居址竈遺物出土状況（南から）



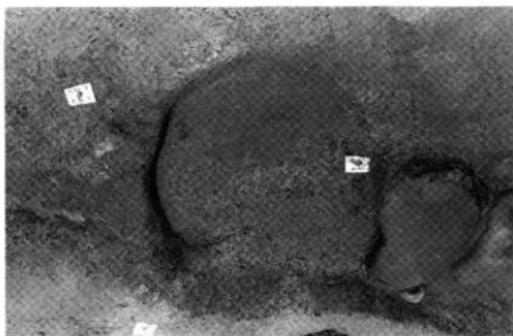
2号住居址竪完掘状況（南から）



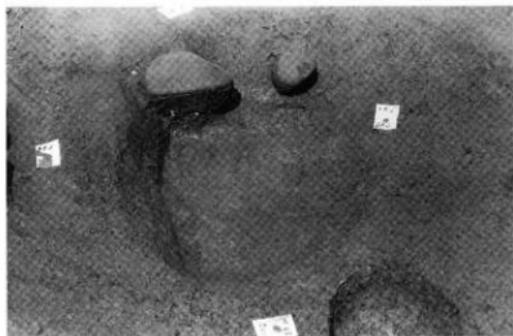
3号住居址（西から）



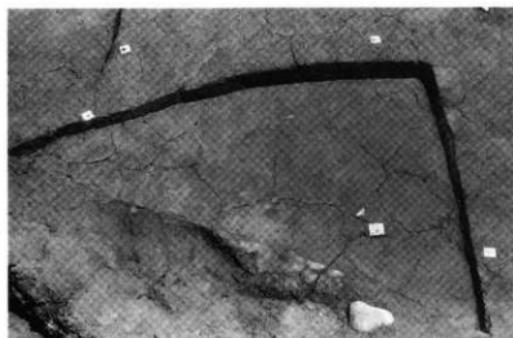
4号住居址（南から）



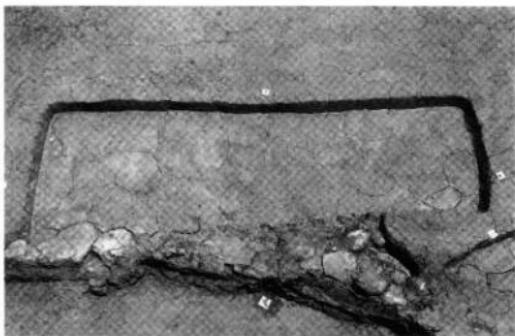
4号住居址 1号竈完掘状況（南から）



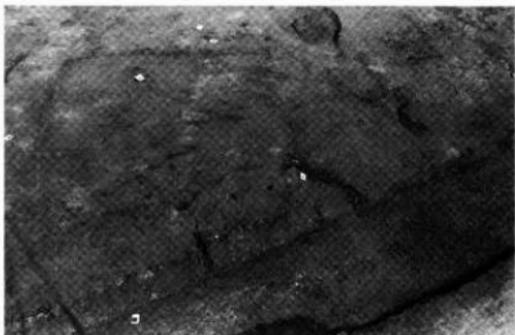
4号住居址 2号竈完掘状況（南から）



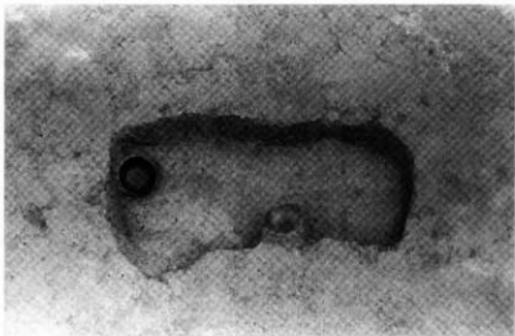
5号住居址（西から）



6号住居址（西から）



8号住居址（西から）



1号土壤（北から）



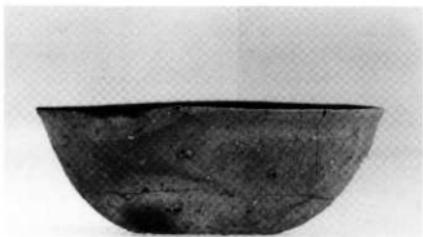
調査前状況



調査状況



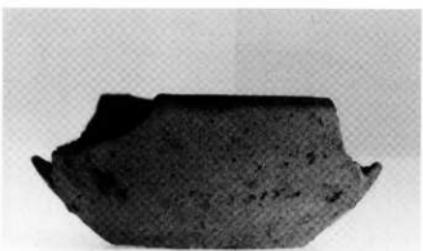
作業員の皆さん



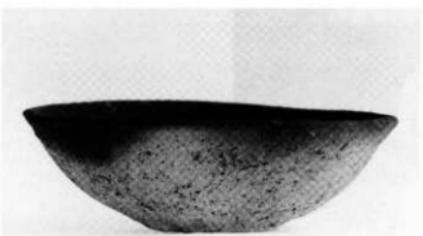
2号住居址 1



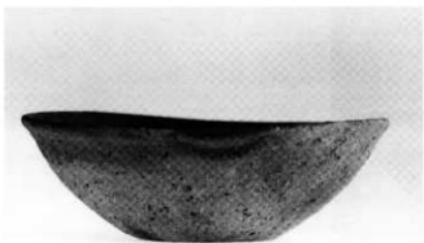
2号住居址 2



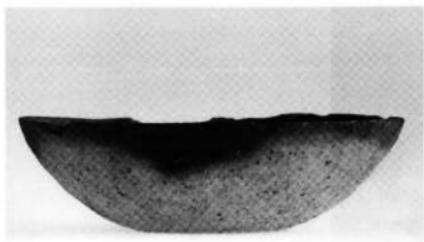
2号住居址 3



2号住居址 4



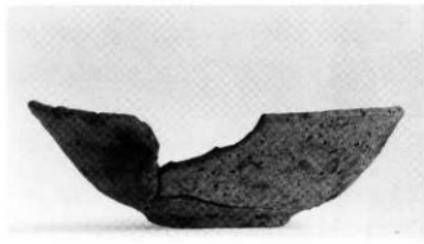
2号住居址5



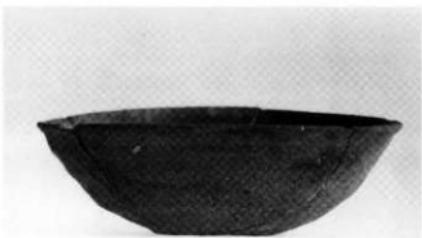
2号住居址6



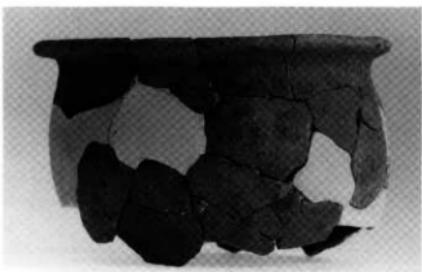
2号住居址7



2号住居址8



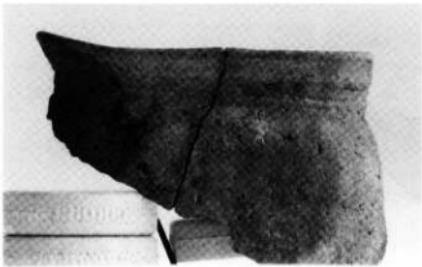
2号住居址 9



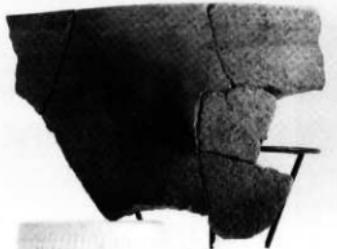
2号住居址 12



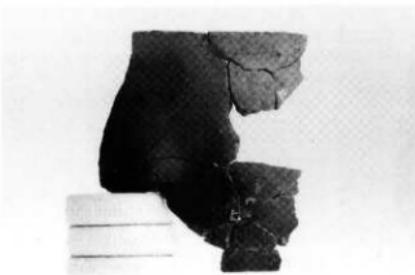
2号住居址 13



2号住居址 15



2号住居址 16



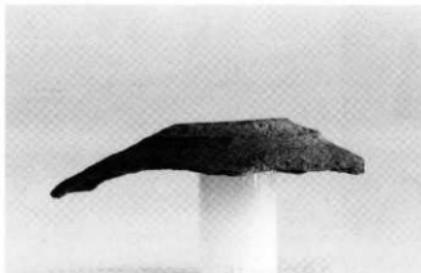
2号住居址 17



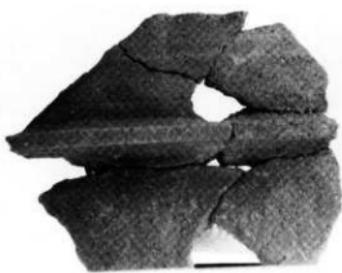
4号住居址 1



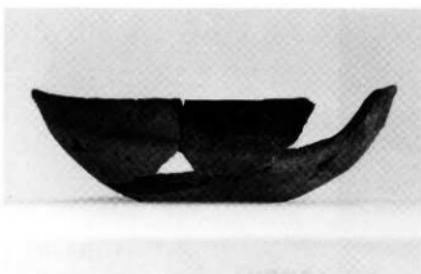
4号住居址 2



4号住居址4



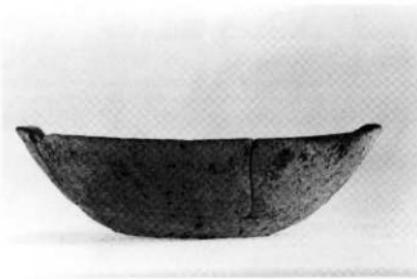
4号住居址5



8号住居址1



8号住居址4



1号土壤1



1号土壤2



13号ピット1底部墨書



S18W21 九葉単弁連花文軒丸瓦

上田市文化財調査報告書 第63集

古 城 遺 跡

上田市立第一中学校建設に係る
古城遺跡発掘調査報告書

発 行 平成9年3月31日
上田市・上田市教育委員会
印 刷 田口印刷株式会社
